

2017. 7.2 (日) 午後1時半～ (開場1時)

- 【開催場所】洞爺湖芸術館2階
- 【参加料】無料 (入館料別途。洞爺湖町民無料。)
- 【定員】50名
- 【要予約】洞爺湖芸術館までお電話ください。



洞爺湖芸術館

TOYAKO MUSEUM OF ART

〒049-5802 虻田郡洞爺湖町洞爺町 96
TEL 0142-87-2525 <http://www.geijutukan.net>

【主催】洞爺湖芸術館 【共催】洞爺湖町

文学企画 「イーハトーボのモノ語り」

雨ニモマケズ、風ニモマケズ…で、あまりにも有名な宮澤賢治。その作品は英語はもとよりドイツ語、フランス語、ロシア語、韓国語、中国語、アラビア語等々世界各国の言語に翻訳されて親しまれています。今回は、この宮澤賢治の童話の朗読とイーハトーボ（宮澤賢治の造語）の歌と踊りを、演出家の三浦恒夫さんの独演でご紹介します。



宮澤賢治ゆかりの敷地にある銅像

賢治さんは、詩人、作家、教師、鉱物学者、農業科学者、宗教者と多面的な人でした。イーハトーボは賢治さんの造語で、理想郷としての岩手をエスペラント語風に表したものです。岩手県は、明治・大正・昭和になっても冷害の常襲地であることに変わりはありませんでした。そんな厳しい風土の中でも賢治さんは、寒サノ夏ハオロオロ歩キ、ヒドリノトキハ涙ヲナガシ、ホントウノ幸福ヲ求メテ、自分ヲ勘定ニ入レズニ生きぬいた 38 歳という短い生涯でした。また偶然とはいえ、賢治さんが生まれた 1896 年（明治 29 年）には明治三陸津波があり、亡くなった 1933 年（昭和 8 年）には昭和三陸津波が発生しました。2011 年 3 月の東日本大震災では津波のみならず原発事故による深刻な被害もおきています。

さて、ドリームランド・イーハトーボで展開する賢治童話は実に神秘的です。どう一つと風が吹き、なんとも奇妙で愉快なできごとが、その風の中で起きるのです。そして、いつも誰かが、どこかで笑っています。山男がニヤニヤしていたり、虔十さんはひとりで、嘉十さんは喉の中で笑いながらつぶやいたり、鹿たちが跳ね上がって笑ったり、カプカブだったり、そうして、その風がどうと吹き去ってみると、まわりの景色が違って見えるのですが、それがどのように変わったのか、その見分けがよくつかないのです。

※以上は、三浦氏による解説。

三浦 恒夫さんのひと言

私の中の賢治童話は、母からもらったものです。その訳はこうです。花巻女学校に通学していた母は、ある日、音楽の藤原嘉藤治先生から隣の花巻農学校の賢治先生のところに遊びに行かないかと誘われたそうです。ところが汽車通学だったためにその機会を逸し、103 歳で亡くなるまでそのことを悔んでおりました。母はいつも賢治さんの歌を口ずさんでいましたから、私の賢治さんへの入り口は子どもの頃の母の歌とお話なのです。

プロフィール

岩手県北上市生まれ。芸能従事者・演出家。現在フリー。
生まれ育った和賀地方は民俗芸能の宝庫といわれ、幼少の頃から芸能に親しんで育つ。20 代から専門歌舞団に所属。日本各地の伝統芸能を取材し、教えを請い、舞台作品として再創造活動にあたる。
座右の銘は「お師匠さんは、お百姓さんや漁師さんのなかにこそあり。」



◎交通案内

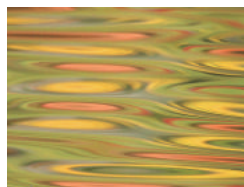
【バス】

札幌駅バスターミナルより洞爺湖温泉行き「洞爺水の駅」下車徒歩 3 分

【車】

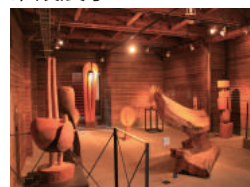
札幌から 230 号線 約 2 時間、
室蘭から 37 号線 約 1 時間 20 分

同時開催



徳丸 晋 写真展

常設展示



砂澤ビッキ彫刻作品